シリーズ・香川大学の貴重図書 13

# 神原文庫蔵『セキスピヤ物語』（品田太吉譯）

教育学部教授
田　村　道　美

チャールズ・ラム（Charles Lamb, 1775-1834）は偉大な文学者ではなかったが，随筆に独特の魅力を持ち，日本では昔からその作品を愛好する英文学者が多かった。しかし，ラムの随筆は文体が古雅であり，古典からの引用も多く，普通の読者には近づき難いところがある。普通の読者にとって，ラムはむしろ『シェイクスピア物語』（*Tales from Shakespeare*, 1806）の作者として知られてきたのではないかと思われる。 この作品はラムが姉メアリーと協力して，シェイクスピアの劇から20編を選び出し，少年少女用に易しく書き改めたものである。今筆者の手許に『シェイクスピア物語』の訳本が7種類ある。一番古いものが昭和2年刊で，一番新しいのが昭和52年刊であり，その殆どが文庫本である。これによっても，『シェイクスピア物語』が日本の一般読者に昔から広く親しまれてきたと言えよう。

ところで，ラムをこよなく愛した英文学者の一人福原麟太郎に『チャールズ・ラム傳』と題する評伝がある。この評伝の巻末に「チャールズ・ラム書目」という一章があり，その中で福原は昭和3年10月から翌年3月まで，同人雑誌『亡羊』にラムの欄を設け，そこで日本におけるラムの文献に関する情報を募ったところ，英文学界の大御所齋藤勇（たけし）が真っ先に資料を送ってくれたことを記している。その資料とは，日本最初の『シェイクスピア物語』の訳集と考えられる品田太吉の訳本についての次のような書誌的記述であったという。

『セキスピア物語』　品田太吉譯
依田百川題辭（5）セキスピア傳（16）ラム傳（4）本文（201）（「ハムレット」「リーア」「ゼロナの二紳士」「マクベス」「シムベリン」及び「ゼニスの商人」を集めたもの）（品田太吉出版・明治十九年十二月）四六版四五錢。（註，カッコ内は數字は頁數）

ボール表紙の英字次のとほりの誤植あり。

"LAMB'T TALES FROM SHAKSPFARE"

齋藤が逸速く上の情報を提供してきたということは，とりもなおさずこの訳本が当時にあってすでに稀覯書であったからであろう。因に，国立国会図書館編『明治・大正・昭和翻訳文学目録』にはこの訳本は記載されていない。また，福原は齋藤の上の情報を記しているだけで，品田の訳文等についての感想は何も記していない。原本を見る機会がなかったためであろう。以上のことからも，品田太吉譯『セキスピア物語』はきわめて貴重な書物であると考えられる。なお，品田譯『セキスピヤ物語』以前にも，『シェイクスピア物語』に収録されている20編の内，「冬の夜ばなし」「お気に召すまま」「ハムレット」「ヴェニスの商人」等が単独で翻訳紹介されているという。また，『セキスピヤ物語』が刊行された明治19年には，「冬の夜ばなし」と「尺には尺を」の二作品の訳を収めた叢菊野史（仁田桂次郎）譯『泰西奇談　冬物語・因果物語』（同人）が出ている。しかし，表題を原題に倣って『セキスピヤ物語』とし，しかも原作の三分の一弱の作品をまとめて収録しているという点では，品田のこの訳本を『シェイクスピア物語』の本邦初訳本と見做すことができると思われる。そして，この訳本が実は神原文庫に収められているのである。

筆者は齋藤勇の上の書誌的記述が正確であるかどうか確認するために，神原文庫蔵『セキスピヤ物語』にあたってみた。装丁はボール表紙背布装で，サイズは18.3cm ×12.5cm である。表紙と題扉にはともに「英國チヤールス，ラム著　日本品田太吉譯『セキスピヤ物語』」とある。したがって，齋藤の『セキスピア物語』は不正確である。また，表紙と題扉両方に英語で原題が示されているが，前者にはLAMB'S. TALES. FROM SHAKSPFAREとあり，後者にはLAMB'S TALES FROM SHAKSPEARE とある。齋藤の指摘通り，Shakespeare

の綴りに誤りが見られるが，LAMB'T は齋藤の見誤りか，福原の誤記であろう。

『セキスピヤ物語』の構成は次の通りである。

依田百川序（5）
例言（2）
セキスピヤ氏の傳（16）
チヤールス，ラム氏の傳（4）
セキスピヤ物語
　目録
○リーア王の事　三十七丁
○ベロナ二才子の事　七十三丁
○マクベス簒位の事　百八丁
○ベニス商人の事　百六十八丁

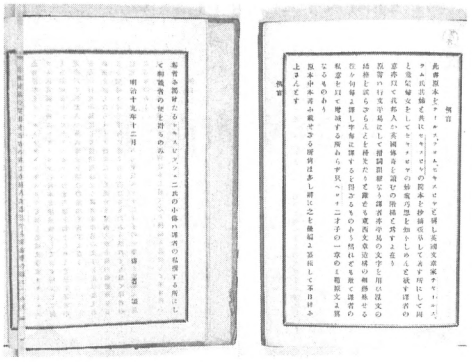
以上から，齋藤が「例言」を見落としていること，「ベロナ」を「ゼロナ」，「ベニス」を「ゼニス」と異なった表記をしていることが分る。なお，齋藤は触れていないが，各物語には日本人画家の手になる挿絵が一葉ずつ添えられている。

奥付は次の通りで，奥付に関する齋藤の記述は正確である。

明治十九年九月二十五日版權免許
　仝　年十二月　出版　定價金四十五錢
譯者兼出版人　新潟縣平民　品田太吉

齋藤が見落とした「例言」において品田は次のように述べている。

此書原本を「テールス，フロム，セキスピヤ」と稱し英國文章家チヤールス，ラム氏其姉と共にセキスピヤの院本を抄摘抜萃して著す所にして固と童蒙婦人をしてセキスピヤの妙案巧思を知らしめんと欲す譯者の意亦以て我邦人か英國傳奇を讀むの階梯と爲すに在り
原書は行文平易にして措詞閑雅なり譯者亦平易の文字を用ひ原文の語格を誤らざらんことを務めたりと雖ども東西文章造構の相懸殊せる往々句毎に譯し字毎に譯するを得ざるものあり然れども敢て譯者の私意を以て増減する所あらず只ベロナ二才子の一章のみ稍原文に異なるものあり
原本中本書に載せざる所尚ほ多し將に之を後編に纂輯して不日梓に上さんとす
巻首に掲けたるセキスピヤ，ラム二氏の小傳は譯者の私撰する所にして聊讀者の便を計るのみ



上の「我邦人か英國傳奇を讀むの階梯と爲すに在り」から，品田が『シェイクスピア物語』の翻訳を刊行した意図を知ることができる。なお，「セキスピヤ氏の傳」の中で「傳奇」には「ドラマ」とルビが振られているから，この箇所の「傳奇」も「劇」の意味で用いられているのであろう。また，品田は「原本中本書に載せざる所尚ほ多し將に之を後編に纂輯して不日梓に上さんとす」と記している。『シェイクスピア物語』には20編が収められている。すなわち，「あらし」「真夏の夜の夢」「冬の夜ばなし」「むだ騒ぎ」「お気に召すまま」「ヴェローナの二紳士」「ヴェニスの商人」「シンベリン」「リア王」「マクベス」「終わりよければすべてよし」「じゃじゃ馬ならし」「間違いの喜劇」「尺には尺を」「十二夜」「アテネのタイモン」「ロミオとジュリエット」「ハムレット」「オセロ」「ペリクリーズ」の20編である。品田は残り14編を近々上梓したい旨を記しているが，何らかの事情で実現には至らなかったようである。

ところで，筆者は以前に，野上弥生子の『沙翁物語』中の「リア王」の或る一節の訳文と原文とを比較したことがある。その箇所を原文と訳文で示せば次のようである。

This plainness of speech, which Lear called pride, so enraged the old monarch — who in his best of times always showed much of spleen and rashness, and in whom the dotage incident to old age had so clouded over his reason, that he could not discern truth from flattery, nor a gay painted speech from words that came from the heart — that in a fury of resentment he retracted the third part of his kingdom which yet remained, and which he had reserved for Cordelia, and gave it away from her, sharing it equally between her two

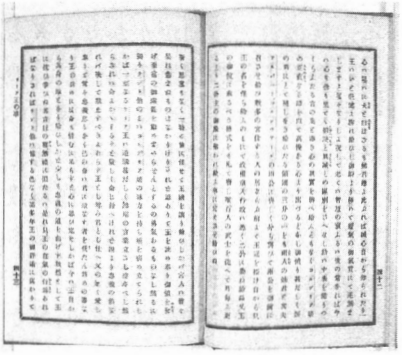
sisters and their husbands, the dukes of Albany and Cornwall; whom he now called to him, and in presence of all his courtiers, best owing a coronet between them, invested them jointly with all the power, revenue, and execution of government, only retaining to himself the name of king; all the rest of royalty he resigned, with this reservation, that himself, with a hundred knights for his attendants, was to be maintained by monthly course in each of his daughters' palaces in turn.

高慢とリアが呼んだこの明らさまな言ひ分は，老いたる王を非常に怒らせました。—リアは最も機嫌のよい時でも癇癪もちでかつとなる方であつたのに，老齢につきものの耄碌で理性を晦まされ，眞實とおべつかの區別もつかなければ，華やかに飾り立てた言葉と，眞心から出るそれとの見境ひもつかなくなつてゐたので—激怒のあまりコーデリアのために取つて置きにしてあつた三分の一の領土を撤回して，彼女にはやらないことにし，二人の姉たちとその夫なるオールバニ公とコーンウォール公との間に等分に分けさせました。その人々を彼は今自分のところへ呼び寄せ，廷臣の集まつてゐる面前で，彼等の間に一つの王冠を授け，すべての權力，歳入，及びその政治の執行を共同に附與するとともに，自分自身にはただの王と云ふ名目だけを留めることにしました。その他王の權威に付くすべてものを彼は辭退し，自分の家來として百人の騎士をもつて，一月交代に娘たちの宮殿で世話になると云ふことだけを保留しました。

上の一節は父親リアへの愛情を，姉たちのように美辞麗句を用いずに，出来る限り正直に語ったコーデリアの言葉を聞いた時のリアの反応を描いたものであるが，一読して明らかなように，この段落は長い一文から成っている。弥生子はこの長い一文を日本語で忠実に訳そうとするのは無理と判断して，四つの文に訳し分けている。弥生子の訳文は概ねこなれた日本語になっている。ただし，訳文と原文とを比較してみると，冒頭の部分にある「この明らさまな言ひ分」と「機嫌のよい時でも」は訳としては少々疑問がある。「この明らさまな言ひ分」にあたる原文 'This plainness of speech'の意味するところは「コーデリアが父親リアを心から愛していることを，姉たちのように言葉を飾らずに，率直に述べたということ」であるから，これを「明らさまな言ひ分」と訳すと原句の意味とかなりずれてしまう。「この飾らない言葉」（村岡訳），「その飾らぬ言葉」（大場訳），「飾りけのない言葉」（本多訳）などと訳すべきであろう。また「最も機嫌のよい時でも」は誤訳であろう。原文の 'in his best of times' は 'old age' と対比的に用いられており，「老齢」に対して「人生の最盛期において」という意味である。したがって，「最盛期にあっても」（本多訳）が原句に最も近い訳であろう。なお，筆者なら「壮年時にあっても」と訳したい。なお，弥生子は『沙翁物語』を訳す際に，平田禿木譯『沙翁物語』を参考にしていた。そして，禿木は上の二箇所をそれぞれ「餘りに明らさまなこの言ひ分」，「御機嫌といふ際でも」と訳しており，弥生子の訳は禿木のそれを踏襲したものと考えられる。

上の一節を品田は次のように訳している。

王はいと壯健に勝れ給ひし御時より極めて短氣の御氣質にて逆鱗ましますこと屢々なりしに況して老ては智慧の衰ふるは世の常なれば今は心も曇り果て、媚諛（こびへつらひ）と眞誠（まこゝろ）との區別をさへなし給はず表を飾りつくらふたる言の葉と赤き心の眞實を辯へ給ふこともなくコルデリア姫の正直（ありのまゝ）なる語を以て高慢なる心より出づるとなし御憤り甚だしく姫の爲にとて殘しをき給ひたる領國の三分の一をも兩人（ふたがた）の姉君と其夫アルバニー，コルンウオールの兩公に齊しく分ち與ひて兩公を御前に召させ給ひ數多の宮仕する人の居ならぶ前にて王冠を授け自から只王の名を保ち給ふのみにて政權歳入行政は悉く二公に委ね給ふ又王の御位に奉るべき格式をも凡て廢し唯百人の武士を從へて月毎に更るがわる二公主の御殿に招かれ給ふことに定めさせ給ひぬ



品田は禿木と弥生子が誤訳した箇所をそれぞれ「壯健に勝れ給ひし御時」，「正直（ありのまゝ）なる語」と正確に訳している。また，他の箇所も正しく訳してい

る。これによって，品田が並々ならぬ英語力の持ち主であったと推測される。豊田實『日本英學史の研究』の中に『シェイクスピア物語』の邦訳についても触れた箇所があり，そこで豊田は禿木訳と弥生子訳とを「共にラムの物語の出色の全譯である。」と高く評価しているが，品田の『セキスピヤ物語』こそ出色の名に値する訳書と考えられる。木村毅・齋藤昌三「西洋文學飜譯年表」によれば，品田は万葉集の研究家であったという。なぜ，万葉集の研究家が『シェイクスピア物語』を訳すに至ったのか，その経緯については詳らかでないが，『セキスピヤ物語』一巻は単に『シェイクスピア物語』の本邦初訳本というだけでなく，その翻訳そのものによっても注目されてしかるべき貴重な書物であると言えよう。

＜1冊の本＞

# 信念を持つ

工学部長
石川　浩

少年時代は象頭山中腹の図書館によく通った。自宅から歩いて小一時間，観光街の表参道を避けて裏山から入り，木々の緑，大地の草花の季節を追う変化に驚きを覚えながら，大きな楽しみの一つだった。素晴らしい世界の偉人達の伝記物に感銘を受け，貪るように読み耽った記憶がある。中でも，野口英世が大好きだった。極貧の境遇に我が身を重ね，「てんぽう」と嘲笑されながらも不屈の闘魂で医学の道を志し，世界の野口に成長する様に我が将来を得た思いであった。基礎医学を専攻し，難病をもたらす悪の病原菌を必ずやこの世から駆逐してみせん，と息巻いていたように思う。

しかし，こんな思いは大学受験で見事に覆されてしまった。当時は，所得倍増，高度成長への萌芽期で，理工系ブームが社会を席巻していた時代である。今は亡き親父は医学部より工学部へ行けと言う。医学部は6年一貫教育で時間がかかりすぎるというのが，他愛ない彼の主張の根拠であった。浪人も許さんぞと強く申し渡されて，やむなく関西の大学工学部機械工学科へ入学し，大学院修士・博士と一貫して「材料力学」を専攻した。ものを作る設計図を描くためにいろいろの計算をする基礎となる学問である。果たせなかった基礎医学の道を，工学の基礎分野で果たそうという潜在的な願望の結果かも知れない。病を治す医の道に代えて，人工の機械や構造物が故障・破壊しないようにするにはどうすればよいのかに興味をすり替えたと言えなくもない。機械や構造物の破壊の主要因は「疲労」によるものである。従って，疲労現象を究明し，疲労破壊を防止する設計手法を確立すればよい。

恩師河本実先生の「疲労」の講義に大変に触発され，師事することとなった。先生曰く，一見無味乾燥に見える金属にも人間に近い挙動を示すことが多々ある。例えば，長時間仕事を続けると人が疲れるように，金属も負荷を受け続けると疲労する。トレーニングを重ねれば筋力が付くように，軽い負荷から始めて順々に負荷を増していくと，金属は思いもかけない強さを見せる。蟻の穴のような小さい切欠きでも，応力がそこに集中して大変危険だ，等々…。人間とのアナロジーにおいて，金属に大変親しみを覚えて疲労研究の道に入り，試験機を回してはデータをとり続けた。疲労現象の解明は負荷1千万回が勝負である。毎分2千回転で運転しても，1千万回に到達するまでには3～4日かかる。不眠不休で頑張っても1ヶ月でわずかに7～8個の点がグラフ上に打てるだけの，実に根気のいる研究である。おまけに，疲労強度は人間同様に気まぐれで，全く同一条件で試験してもデータがばらつくことこの上ない。信頼性の高い結論を引き出すには，金と時間が勝負という側面が無視できない。

恩師の御著「金属の疲労」（朝倉書店刊）は，40年以上にわたる先生のこのような疲労研究の成果を総集した労作である。他人の成果の引用は一切ない，と断言されている先生の一徹さは誠に快い。自らあ